（会議の経過）

発言者	課題・発言内容
	１．開会 ２．あいさつ ３．宍粟市地域包括支援センター運営協議会 （1） 平成 30 年度における保険者機能強化交付金について　（資料１）
事務局	点数も大事だが、取り組みの過程を大事にしたい。 宍粟市の現状として取り組まなければいけない部分を確実にしていきたい。
	（2） 認知症初期集中支援チームの活動状況について　（資料２）
A委員	相談される人もさまざまで、この先どうしたらよいか分からないという人が多かった。 社会で孤立しないよう医療、介護、地域での見守りにつなげた人もいる。 まだまだたくさん地域にはいるだろう。 担当ケアマネジャーがいない人、かかりつけ医がいない人がいれば相談をかけてほしい。
B委員	一宮、波賀のケースがないのはどうしてか。 地域に困っている人はたくさんいる。
事務局	周知不足である。
A委員	支援対象者には要件がある。担当ケアマネジャーがいない人、かかりつけ医がいない人がいれば、認知症初期集中支援チームがあるということを紹介していただきたい。
C委員	民生委員などに啓発が必要である。チームの存在自体が知られていない。
A委員	昨年からスタートし、認知症初期集中支援チーム員も模索しながら進めてきた。一年たち軌道に乗ってきたところである。
B委員	どこへ相談したらよいか分からない人がたくさんいる。 地域で気になる人がいれば早期の相談、対応が必要である。

Ａ委員	地域包括支援センターという総合窓口がある。 一番望ましいのは地域住民から気になる人がいると自然に声が出るような地域になればよい。 ４．地域ケア推進会議 前回の地域ケア推進会議の振り返り（事務局より説明）　　（資料３） 活動事例紹介 （副会長、宍粟市社会福祉協議会　生活支援コーディネーターより説明） 地域により課題が違う。その地域にあった課題の解決方法を考えていこうと、自治会に福祉連絡会がある。
Ｄ委員	地域との関わりとしては、今後自治会の人へ介護について講演会を予定している。 地元の若者からの発信だと行政や専門家からとはまた違ったアプローチになるのではないかと思っている。
事務局	福祉連絡会は地域により差がある。 社会福祉協議会が関われていない自治会へのアプローチをしていくかが今後の課題。 社会福祉協議会の専門職としてできることを地域へ発信している。
Ａ委員	地域の中からリーダーを作ることが難しい。 地域の人材をどのように生み出していくのか、どのようにしたら広がっていくのか。
事務局	広報で地域の情報を発信しているが、読んでもらえる機会が減ってきている現状がある。 どのように情報発信していくかが課題である。 隣の自治会から刺激を受けて広がりがつくれたらよい。
事務局	みんなが住みやすい地域にするためにはどうすればよいか、今まで皆さんに意見をいただいてきた。 専門職、地域住民、それぞれ自分たちでできる範囲で啓発していくことが大事

	である。 地域の集まりには社会福祉協議会の皆さんにも協力してもらい話し合いが生まれ、住みやすい地域になればよいと思っている。 ５．閉会